

紙面でつながる なみエール



なみエール第四号 令和3年2月1日発行 編集/一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、気軽に会ったり集まったりすることが難しい状況が続いています。一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業では、町民の皆さん同士や地域が紙面を通してつながりを維持しながら、浪江町の情報を楽しんでもらえるようにと「なみエール」を発行しています。

浪江のあれこれ

浪江町の様々なテーマについて

深掘りし紹介するコーナー



「権現堂城跡入口」の標柱



今も残る土塁跡

権現堂城の築城年代は定かではありませんが、文安年間(1444～1449)に標葉清隆によって築かれたと伝えられています。場所は西台、請戸川の北岸です。ご存知のように戦国時代に入ると、北方の相馬氏、南方の岩城氏との抗争が激しくなり、請戸城(現浪江町請戸の大平山)では、平地で防備に難が有った為、防衛力の高い城を求め権現堂城に移ったと言われています。

標葉氏は、標葉六騎七人衆という一族を率い、鎌倉時代初頭から標葉郡で一定の勢力を保っていました。しかしながら、1492年、相馬盛胤^{そうま もりたね}に攻撃され、城主・清隆とその子隆成^{たかなり}は自刃し、約300年に渡ってこの地を支配していた標葉氏は滅びてしまいました。



雷神社

現在、権現堂城跡の敷地内に祀られている雷神社は、後世に安置されたものだそうです。西台の氏神様であり、嘗ては、ここを駆けまわって遊んだという方には、当時の様子を楽しそうにお話して頂きました。また、盆踊りをしたという方、更には、裸参りの経由地であったなど、浪江町民に大変親しまれた場所だったとのことでした。桜の季節に、リバーラインと権現堂城跡を散歩して、昔を懐かしみながら時を過ごせばいいのにな～、とふと思ってしまいました。皆さん、如何ですか。そんな浪江町の歴史にわくわくしませんか。

出典・参考文献：「日本城郭体系 権現堂城」「みちのく悠々漂雲の記」「浪江町ホームページ」

第4回のテーマは、浪江の「かくれた歴史」です。今回は、権現堂城^{ごんげんどうじょう}の紹介です。

新町通を北へ、県道120号線を小高方面に向かうと右側に「権現堂城跡入口」という標柱があり

ます。この奥が権現堂城(別名西台館)跡です。車では奥まで進めません。徒歩であれば入口が何箇所かあります。嘗ては、徒歩で本丸跡付近まで辿り着けたので、散歩コースに良い場所だった様です。しかしながら今現在は、笹藪地帯となっており、奥までたどり着くには相当の勇気と覚悟が必要かもしれません。(立ち入り禁止ではありません)



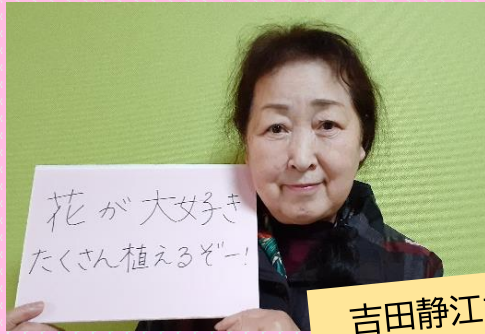
城の敷地内から街並みを望む

読者の方よりお問合せいただきました、第二号の森林鉄道の記事に関して追記します。森林鉄道が福島県全域で運用されていたのは明治45年度から昭和45年度の間で、浪江林道に限ると、大正6年から昭和37年度の期間となります。

(出典: 関東森林管理局ホームページ 福島の森林鉄道 WEB 史料室) 引き続き情報やご質問などお気軽にお寄せください。

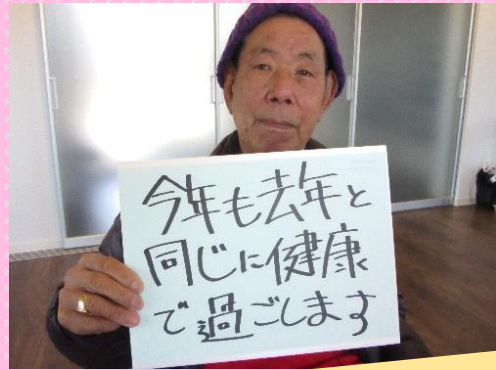
浪江でひとこと 2021

町民の皆さんの声 ～今年の抱負編～



吉田静江さん

花が大好き
たくさん植えるぞー!



木幡昌征さん

今年も去年と
同じに健康
で過ごします



千葉弘信さん

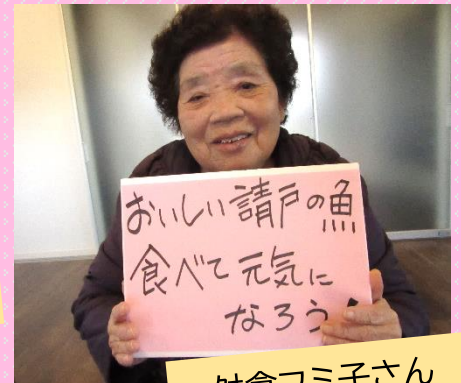
全力疾走

なみえ



坂本銀子さん

健康に気をつけて
元気に暮らしたい
と思っています♡



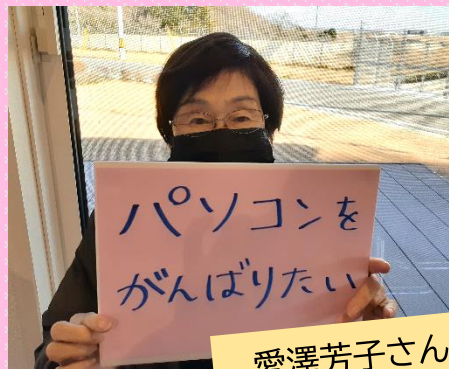
舩倉フミ子さん

おいしい請戸の魚
食べて元気に
なろう



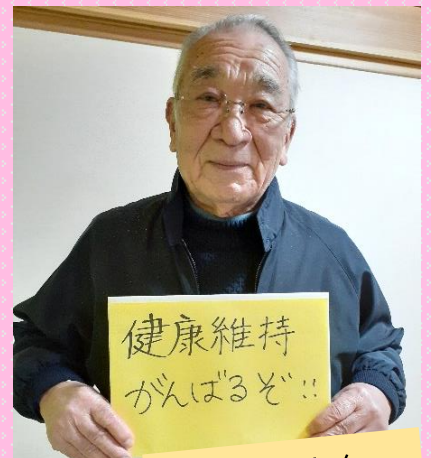
高橋イネさん

健康で
長ーく生きる!!



愛澤芳子さん

パソコンを
がんばりたい



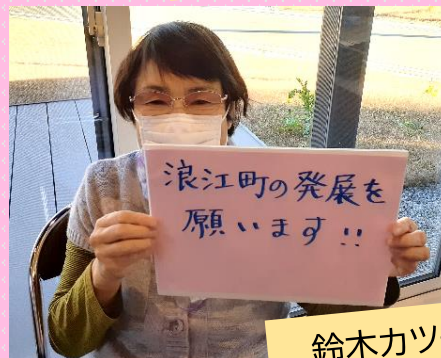
熊川勝さん

健康維持
がんばるぞー!!



小磯由奈さん

ラスト10代
楽しむぞー!!



鈴木カツ子さん

浪江町の発展を
願います!!

新型コロナウイルスによって町民の皆さんが交流する機会が減ったり思うようにつづれない中、紙面を通じて皆さんがつながりを感じることができれば、と発行してきた「なみエール」も第四号となりました。今年度の発行は本号が最終号となります。引き続き、まちづくりなみえのホームページ内ブログ「なみえの今」では地域の出来事や様子などを発信しています。右のQRコードからもアクセスできます。どうぞご覧ください。

(編集 まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業 今野聡、引地裕子、佐藤満、岸本あすか)

